

〔園太曆〕康永四年正月一日、依春日神木并神輿事、東大寺八幡宮關白以上拜禮、中無之、

貞和二年正月一日辛巳、東大寺八幡宮神輿未歸坐之間、中執柄拜禮又被略云々、四年正月一

日、春日神木於移殿越年給、仍長者以下、執政一族不被出仕、大臣皆被蟄居也、依度々之例、關白并仙

洞拜禮、中被止之云々、

文和二年正月一日、今日、關白拜禮無之云々、陽祿門院光嚴五旬之忌未過之故歟、舊冬執政被示

合之間予計申此趣、若被容、莠言歟、

延文三年正月一日、依東大寺神輿事、中關白被止拜禮儀云々、

〔續百一錄〕延享三年正月十三日、百萬遍方丈諸禮、尊勝院樣同斷、寶慈院樣より諸司代へ一東水引

兩町奉行へ小鷹引合十帖ツ、例年今日也、御使喜内、十五日、牧野備後守殿京都部へ年始御祝

儀、御使西野左近、

〔家忠日記増補〕天文十六年正月、廣忠德君御不例に依て、今川義元に新正の賀儀を告玉はんが

爲に、御名代として松平藏人信孝をして、駿州に赴かしめ玉ふ、

〔總見記十四〕甲戌歲旦御酒宴御肴事

天正二年甲戌正月元日、歲旦ノ嘉儀ヲ祝シ、在岐阜ノ大身小身、皆々出仕御禮ヲ勤ケルニ、信長公

御機嫌宜敷、三獻ノ御酒宴アリ、其後又此肴ニテ一獻メ、グラスベキノ由、御誕有テ、黒漆ノ箱ヲ取

出サレ、列座ノ中ニ指置キ給フ、柴田勝家はヲ見テ、イカナル御肴ニテ御座候ゾト申上ル、信長公

自身其箱ノ蓋ヲ御ヒラキ成サレ候ヘバ、金銀ノ薄ニテ濃付タル白頸三ツアリ、各札ヲ付ラレテ、

朝倉義景、淺井久政、同長政三人ノ頸ナリ、出仕ノ面々皆以、アハレ是ハヨキ御肴ト申上ル、信長公

御誕ニハ、何レモ大身小身ノ面々、多年軍功ヲ勵シ、忠節ヲ盡スニ依テ、此三敵ヲ亡シ、今春ハ心安

是ヲ肴ニシテ、酒ヲ酌ノ時ニ至レリ、何レモ各ノ満足、我等ガ大慶不過之ト被仰、ソレヲ肴ニシテ、